

東西経済回廊幹線道路整備計画（バゴーチャイトー間新道路）【ミャンマー】

施策所管局課 国別開発協力第一課

評価年月日 令和8年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	ミャンマー連邦共和国
(2) 案件名	東西経済回廊幹線道路整備計画（バゴーチャイトー間新道路）
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日、供与条件などを含む	交通需要の急増が見込まれる東西経済回廊のバゴーチャイトー間に新規で整備される予定のバイパス上に新規橋梁を整備するとともに、道路・橋梁の維持管理体制強化に向けてツワナ研究・研修センターを改修することにより、当該区間における人や物流の効率化と実施機関の維持・管理能力向上を図り、もってミャンマーの社会経済活性化、及び国内・国際物流活性化に寄与するもの。 事業の内容 ・新シッタン橋の建設 ・ツワナ研究・研修センターの施設建設・機材調達 ・コンサルティング・サービス ア 閣議決定日：令和2年11月4日 イ 供与限度額：277.79億円 ウ 金利：0.01% エ 償還（据置）期間：40年（10年） オ 調達条件：一般アンタイド
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	ア 社会ニーズの現状 ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナム、タイ及び中国のメコン河流域の6か国では、連結性向上を目指し大メコン圏経済回廊の整備が進められており、うち東西経済回廊は、ミャンマーと主要貿易相手国であるタイを陸路で結んでいる。本事業の計画当初、東西経済回廊のミャンマー側区間は、橋梁の老朽化に伴う重量制限、急勾配・急カーブ、市街地の通過など、物流効率化、道路機能及び安全上の支障となる課題を抱えていた。同区間のうち、バゴーチャイトー区間は、既存道路（86km）が市街地を通過していることから、生活交通と通過交通が混在し著しい渋滞が発生し、新規バイパスの整備が急務となっていた。また、こうした道路・橋梁の建設の進展に伴い、適切で持続可能

	な運営・維持管理のための人材育成、体制整備及び国際幹線道路の品質向上が不可欠であった。 現在も、交通需要の増加に伴う回廊整備を通じた物流の効率化は引き続き課題であり、あわせて道路・橋梁の適切な運営・維持管理のための人材育成及び体制整備の必要性も継続していることから、本事業に関する社会的ニーズは引き続き認められる。 イ 事業遅延に関する経緯・現状 ミャンマー情勢の影響により、事業の遅延が発生している。
(2) 今後の対応方針	本件に関する社会的ニーズは引き続きあるものの、2021年のクーデターに伴いミャンマー情勢が不安定化しているところ、同情勢の推移を踏まえ、対応ぶりを慎重に検討する。
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・ 政策評価法に基づく事前評価書 ・ 国際協力機構の案件検索 ・ 国際協力機構の事業事前評価表 ・ その他国際協力機構から提出された資料